

テーマ型共創フロント 募集シート

■提案の募集内容について

募集テーマ	横浜市立図書館の新情報システムの利用促進による市民の情報リテラシー向上
提案の募集対象 (テーマに関連する事業等の概要)	<p>【名称、概要、場所、その他データ等】 図書館情報システムは、年間約 2,500 万件のアクセスがある、多くの市民の方が利用するサービスです。</p> <p>【参考：現システム URL】 https://opac.lib.city.yokohama.lg.jp/opac/ 市立図書館全 18 館にある約 400 万冊の図書や雑誌などを管理しており、リアルタイムで蔵書検索が可能であると同時に、インターネット上で予約をすることができます。</p> <p>令和 6 年 1 月に新たなシステムに更新することに伴い、蔵書検索・予約のユーザインターフェースを大きく変更することになります。</p> <p>そこで、<u>スマートフォンの操作補助・支援を実施いただける企画</u>を募集します。また、<u>高齢者の方による図書館情報システムの利用を促進するような PR に関する企画</u>を募集します。</p>
提案を募集する背景・課題	<p>図書館情報システムの更新により、市民が利用するオンラインサービスのユーザインターフェースが大きく変わることで、高齢者を中心とした、情報機器の操作に不慣れな方にとっては、操作方法を習得し、サービスを使いこなすまでに労力を要します。</p> <p>予約の利用状況を見ると、インターネットによるものが全予約件数の 9 割以上を占め、また 60 歳代以上の方による利用も全体のおよそ 3 割を占める状況です。とりわけシステムが更新された直後は、主に高齢者の方が操作に迷うことが想定されます。より便利に多くの市民の方に使っていただくためには、スマートフォンに不慣れな方を対象にした、操作の紹介や補助が必要だと考えます。</p> <p>DX が進み、モバイル端末が普及する中、あらゆる世代の市民の方が図書館のサービスをスムーズに利用し、新しい機能の利便性を享受できるよう、体制を整えることが課題となっています。</p>
課題によって ① 誰が ② どう困るのか	<p>① 情報機器の操作に不慣れな市民の方</p> <p>② 新しいオンラインサービスの使い方が分からない、また、新しい機能を使うことができない。</p>
課題に対して横浜市が現在どう関わっているのか	<p>新たな図書館情報システムの広報・PR を更新前から実施する予定です。また、システム更新後は、操作方法にかかる案内資料等を作成し、公開する見込みです。</p>
募集対象 ※チェックのついたものが、今回の募集の対象です	<p><input checked="" type="checkbox"/> 公民連携の提案及び連携事業者の募集 ⇒テーマに関する公民連携の提案・アイデア及び連携事業者の両者を募集するものです。</p> <p><input type="checkbox"/> 公民連携の提案のみの募集 ⇒横浜市が今後の事業等の方針や仕様を定めるために、テーマに関する公民連携の提案・アイデア等のみを募集するものであり、連携事業者を募集するものではありません。</p>
横浜市が希望する提案について	<p>市民の方を効果的に支援できる、アイデアや仕組み等の提案を希望します。提案内容は短期的・長期的であるかを問いません。</p>
想定する提案の例	<p>① スマートフォンの操作支援 「蔵書検索ページにログインしたいが、ログイン方法が分からない、メールアドレスがない(分からない)」、「図書館の LINE を登録したいが方法が分からない」といった、スマートフォン等の操作に係るご相談への対応や、操作のサポート等にかかわるご提案を募集します。 (提案例 1) 事業者様の店舗にてサポートを実施いただき、店舗のサー</p>

	<p>ビス等の普及につなげる。</p> <p>(提案例 2) 図書館で実施する操作講座等で、スマートフォンの使い方についてレクチャーをいただく。合わせて事業者様のサービス等の普及につなげる。</p> <p>② 図書館オンラインサービスの PR</p> <p>高齢者の方は、図書館情報システムの使用率が他世代と比べて低いことが課題です。高齢者の方が、スマートフォン等で図書館サービスを使ってみようとするきっかけにつながるようなご提案を募集します。</p> <p>(提案例 1) 高齢者をターゲットとしたイベント、事業等での PR 等</p>
--	---

■提案にあたっての条件

募集期間	随時
実施予定時期	令和 6 年 1 月以降、随時
提案の形式	様式 3 の【提案シート】をご提出ください。 ※提案シートの他、企画書や関連資料の添付も可です
提案の選定方法 ※チェックのある方法で 選定します	<p>■特に選定をしません（提案内容が妥当であれば採用数を絞込まない）</p> <p><input type="checkbox"/> 審査等による選定等を実施（提案内容等を審査・選定し採用数を絞込む）</p> <p><input type="checkbox"/> 提案を参考に、あらためて実施事業者の公募等を実施</p> <p><input type="checkbox"/> その他（ ）</p>
横浜市から提供できる メリット	<p>① 図書館を利用する幅広い年齢の方に、公民連携の取組やサービス等を紹介することができます。</p> <p>※参考データ（令和 3 年度）</p> <p>年間入館者数：中央図書館約 83 万人、全 18 館合計約 663 万人</p> <p>図書館情報システム アクセス数：約 2,500 万件</p> <p>図書館情報システム オンラインでの予約受付件数：約 317 万件</p> <p>② 横浜市立図書館で、事業に合わせて、公民連携の取組やサービス等を紹介できます。</p> <p>③ 事業の広報媒体（チラシ、WEBサイト、SNS等）等で協力企業として紹介します。</p> <p>④ 本取組にご協力いただくことで、地域貢献に対する取組姿勢・理念等を市民に広く伝えることができます。</p>
横浜市の予算措置の 可能性	事業実施等に係る予算措置はありません。
その他の留意点	本事業への協力については、横浜市と協議の上、行います。
提案のお申込み先・ 内容についての お問い合わせ先 (事業所管部署)	<p>横浜市教育委員会事務局 企画運営課</p> <p>TEL 045-262-7334 FAX 045-262-0052</p> <p>E-mail ky-libkiun@city.yokohama.jp</p>